

市政記者クラブ 様

令和6年4月11日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）黒坂、近藤 電話：972-2631
（結核）竹田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和6年3月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 3月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年3月	令和5年3月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	21件	28件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	1件	0件
◆四類感染症 ・レジオネラ症	3件	1件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・梅毒 ・百日咳 ・麻しん	2件 6件 2件 4件 7件 1件 40件 1件 2件	1件 5件 5件 9件 3件 0件 40件 2件 0件
◆五類感染症（定点把握疾病：第10週～第13週（3月4日～3月31日分）） ・報告数の多い疾病は、①インフルエンザ（3,024件：前月比0.49倍）、②新型コロナウイルス感染症（1,762件：前月比0.41倍）、③感染性胃腸炎（650件：前月比0.55倍）の順となっています。		

2 トピックス

《麻しん・風しん～予防には予防接種が効果的、早めに接種して感染を防ぎましょう～》

★麻しん（はしか）について

麻しんは、発しんや発熱を主な症状とする病気です。通常の風邪とは異なり、肺炎や脳炎などを起こして重症化する確率が高く、昔は多くの方が亡くなっていました。現在でも、麻しんにかかると、先進国であっても1000人に1人が亡くなるといわれています。多くの人が予防接種を受けているため、麻しんにかかる人は少なくなっていますが、感染力はインフルエンザよりもずっと強く、免疫が無い状態で患者と接触すると、ほとんどの人が感染してしまいます。大学入学や海外への留学などの際に、麻しんに対する免疫をもっていることの証明書が必要となることもあります。

令和6年3月には本市において、令和元年以降5年ぶりに麻しん患者が発生しました。

★風しん（三日ばしか）について

風しんは、発しん、リンパ節腫脹、発熱を主な症状とする病気です。大人になってからかかると重症化しやすく、また、妊娠中の方が妊娠早期にかかると、子どもに白内障、心疾患、難聴などの先天異常が起こる可能性が高くなります（先天性風しん症候群）。近年、免疫を持っていない成人男性の間に風しんが流行することがあり、妊婦へ感染させてしまうことが問題となっています。

（1）麻しん・風しん（MR第1期・第2期）定期予防接種について

区 分	対 象 年 齢
第1期	1歳以上2歳未満（2歳の誕生日の前日まで）
第2期	小学校就学前年度（令和7年4月に小学校入学予定の方） ※令和6年度は平成30年4月2日から平成31年4月1日生まれの方 ※接種期間：令和7年3月31日まで

（2）風しん（第5期）抗体検査及び予防接種について

第5期	抗体検査	昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性（1回のみ）
	予防接種	抗体検査の結果、風しんに対する抗体値が不十分だと判断された、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性（1回のみ）

※いずれの定期予防接種（第5期の抗体検査含む）も無料で接種することができます。

（参考）過去5年間の麻しん・風しん報告数

年 次	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年※	
	麻しん	風しん	麻しん	風しん	麻しん	風しん	麻しん	風しん	麻しん	風しん
本 市	10	27	0	7	0	0	0	0	0	0
全 国	744	2,298	10	101	6	12	6	15	28	12

※令和5年次は暫定値

3 病原体分離情報（令和6年3月検査分）

1. 令和6年3月17日発症、令和6年3月18日に市内医療機関を受診し、ヘルパンギーナと診断された港区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、手足口病やヘルパンギーナを起こすことが知られているコクサッキーウイルスA群10型を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和6年 第10週～第13週（3月4日～3月31日）

	小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (70医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)								合 計
	インフルエンザ (～鳥インフルエンザ及び ンザ等感染症を除く)	新型コロナウイルス感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (～インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因として同定された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (～病原体がロタウイルスであるものに 限る)	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス感染症※に よる入院患者		
千種	225	86	11	2	30	63	1	1	0	5	0	0	0	1								425	
東	200	87	2	6	18	3	0	0	0	1	0	0										317	
北	259	83	10	1	27	85	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	12	485	
西	431	124	9	13	73	73	1	0	0	12	0	0	0	0								736	
中村	137	182	12	1	8	51	0	2	0	0	0	0	0	2								395	
中	187	59	4	6	89	17	0	1	0	0	0	1										364	
昭和	105	143	0	1	1	25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	20	302	
瑞穂	39	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3								118	
熱田	80	75	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0								158	
中川	253	268	4	10	31	52	2	2	0	3	0	1			2	2	5	0	0	8	23	666	
港	141	90	0	1	17	42	0	0	0	1	0	0										292	
南	104	139	14	3	26	33	1	0	0	1	0	0	0	0								321	
守山	343	105	6	22	82	42	0	3	0	2	0	3										608	
緑	199	135	4	1	45	85	0	0	0	1	0	0	0	12								482	
名東	220	57	8	27	137	57	6	0	0	1	0	0	0	0								513	
天白	101	53	0	3	18	21	0	0	0	1	0	0	0	1								198	
合計	3,024	1,762	84	97	602	650	14	9	0	31	0	6	0	19	2	2	9	0	0	14	55	6,380	
前月	6,133	4,348	17	140	675	1,178	17	10	4	28	2	4	0	11	1	1	3	0	0	31	166	12,769	
前月比	0.49	0.41	4.94	0.69	0.89	0.55	0.82	0.90	0.00	1.11	0.00	1.50	－	1.73	2.00	2.00	3.00	－	－	0.45	0.33	0.50	
昨年同月	3,213	－	10	67	95	1,498	22	7	4	31	1	4	0	4	1	0	0	0	0	0	－	4,957	

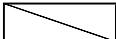
※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

注1 新型コロナウイルス感染症は、小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告は第19週分（令和5年5月8日～）から、基幹定点報告は第39週分（令和5年9月25日～）から集計。

注2  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和6年 3月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	感 性 器 症 ク ラ ミ ジ ア	ウ 性 イ 器 ル ヘ ス ル ペ ス 症	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	感 黄 メ 色 チ 症 ブ シ ド リ ン 球 耐 菌 性	肺 炎 ペ ニ シ ン 菌 感 染 症 耐 性	緑 膿 菌 感 染 症 耐 性	
千種	3	0	0	3				6
東								
北	30	7	7	9	3	0	0	56
西	0	1	0	0				1
中村	4	2	3	2				11
中	51	30	24	18				123
昭和	12	2	6	4	3	0	0	27
瑞穂	1	0	0	0				1
熱田								
中川	9	3	5	7	10	1	0	35
港	4	4	0	0				8
南	2	0	0	0				2
守山								
緑	8	0	1	1				10
名東	1	1	0	0				2
天白	1	0	0	0				1
合計	126	50	46	44	16	1	0	283
前月	108	57	41	44	8	1	0	259
前月比	1.17	0.88	1.12	1.00	2.00	1.00	-	1.09
昨年同月	111	32	25	46	0	0	0	214

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

3月分患者報告数	
週報分	6,380
月報分	283
合 計	6,663

令和6年 3 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和6年 3 月	令和6年計	令和5年計	令和4年計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	62 (13)	30 (2)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	2 (1)	-
	合 計	1 (0)	4 (0)	64 (14)	30 (2)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和6年 3 月	令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	-	3	48 (6)	20 (2)
O26	-	-	4	5
O121	-	-	-	4
その他	1 (1)	1 (1)	1 (1)	-
型 不 明	-	-	9 (6)	1
合 計	1 (1)	4 (1)	62 (13)	30 (2)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

3月

保健センター名	令和6年3月（※）			令和6年計（※）			令和5年計（※）			令和4年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	1	0	0	4	1	0	21	8	5	18	3	11
東	0	0	1	2	2	1	4	1	6	13	5	4
北	3	2	0	6	3	2	18	8	14	26	15	5
西	1	0	0	4	0	2	13	6	11	15	6	8
中村	3	1	0	5	1	0	21	4	10	26	13	8
中	2	0	1	4	1	1	21	9	12	9	3	8
昭和	2	1	0	6	3	0	13	2	6	9	2	5
瑞穂	0	0	0	2	0	1	8	2	3	14	7	2
熱田	0	0	0	2	0	1	4	1	4	9	1	5
中川	0	0	0	0	0	0	31	8	20	24	9	12
港	1	1	0	3	1	2	23	5	10	26	5	11
南	1	1	0	6	3	2	18	7	12	24	9	9
守山	3	1	0	7	3	1	21	12	11	18	10	6
緑	2	0	0	6	1	3	21	5	18	21	8	9
名東	0	0	0	1	0	0	10	4	7	16	6	10
天白	0	0	0	2	1	0	18	7	6	15	2	7
全市	19	7	2	60	20	16	265	89	155	283	104	120

※令和5年・令和6年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年3月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		1	5	1
A型肝炎	-		-	1	1
エムボックス	-		-	3	-
重症熱性血小板減少症候群※	-		-	-	1
つつが虫病	-		-	1	3
デング熱	-		-	6	2
日本紅斑熱	-		-	1	-
マラリア	-		-	1	3
類鼻疽	-		-	-	1
レジオネラ症	3		11	32	47
レプトスピラ症	-		-	1	-
合 計	3		12	51	59

※ 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年3月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	2		3	13	12
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	-	- - -	- - -	B型： 2 - その他： 3	- - -
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6		16	53	62
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	-		-	-	1
急性脳炎※	-		2	17	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		-	3	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		18	22	28
後天性免疫不全症候群	4	- - -	無症候性キャリア： 7 AIDS： 2 -	無症候性キャリア： 55 AIDS： 20 -	無症候性キャリア： 39 AIDS： 16 その他： 2
ジアルジア症	-		1	-	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症	-		4	14	8
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		-	1	1
侵襲性肺炎球菌感染症	7		26	54	36
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	1		4	8	3
梅毒	40	早期顕症梅毒： 29 - - 無症候梅毒： 11	早期顕症梅毒： 63 晩期顕症梅毒： 3 - 無症候梅毒： 36	早期顕症梅毒： 333 晩期顕症梅毒： 4 先天梅毒： 5 無症候梅毒： 126	早期顕症梅毒： 296 晩期顕症梅毒： 5 - 無症候梅毒： 108
播種性クリプトコックス症	-		-	1	3
破傷風	-		-	1	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		1	-	-
百日咳	1		2	16	2
麻疹	2		2	-	-
合 計	65		190	751	629

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻疹及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：25 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 6 年 3 月 31 日時点）